

◆第2分科会

『スマホとSNS時代の情報モラルとは』

『ネット社会で生き抜く子どもたちを育てるためには』

講師 熊本市立総合ビジネス専門学校 教頭 桑崎 剛氏

年々子どもの携帯(スマホ)所持率が高くなり、9割は通話以外で使われているというSNS時代の中、トラブルの類型として、①人間関係、②情報発信、③健康面、④情報セキュリティ、⑤経済面が挙げられ、子どもが使用するにあたり特に心配なことは、①②③であることをお話しいただきました。

このようなトラブルが起こるネット社会の中でのキーポイントは、「より」「さらに」。

「より(さらに)人への配慮が必要」「より(さらに)人とのコミュニケーション能力が必要」ということで、ネット上だからこそ、今まで以上に文章表現を正しくしないと誤解を生みやすくなってしまいます。

小学生に多発する仲間外れは、コミュニケーション不足によるものが大きいそうです。

逆にいえば、ネット機器を上手に使っている人は、コミュニケーションの5点です。

携帯の使い方・管理を子どもとよく話し合うこと、親子のコミュニケーションが重要で、家庭のコミュニケーションが最大のフィルタリングであることがわかりました。

子どもの変化に気づき、SOSを発信してきた時に適切な対応ができるかは、日頃の親子の関わりが大きく影響するように感じた講演でした。

(花陵中学校 西飯 尚子)



◆第3分科会

『落ち着きがないにはわけがある』

『感覚統合(療法)の視点をういた理解と支援のあり方』

講師 熊本保健科学大学 作業療法士 森本誠司氏

子どもたちの心配な行動について、作業療法士という専門的な立場からの講演が行われました。特に「感覚統合」という考え方をういて、子どもたちの様々な状況に言及していただきました。

まず、感覚統合についてと感覚統合療法の解説、そして感覚統合では発達をどのようにみるか、の説明がありました。子どもたちの行動において私たちに見えている問題は氷山の一角に過ぎず、「なぜ」を分析することで問題解決の糸口がわかってくる、ということでした。

必要であるということでした。続いて注意欠陥/多動性障害(AD/HD)についての講演がありました。多動・衝動型と不注意型とがあり、発生率は5〜8%、男女比は5:1とのことでした。

また、感覚統合についてと感覚統合療法の解説、そして感覚統合では発達をどのようにみるか、の説明がありました。子どもたちの行動において私たちに見えている問題は氷山の一角に過ぎず、「なぜ」を分析することで問題解決の糸口がわかってくる、ということでした。

このAD/HDの特徴は、話を聞いていない、叱られても同じことを繰り返す、注目してもらいたがる、他の子どもとのトラブルが多い、カッとなり抑えられない、キレやすい子どももいる

等であり、いくつかの具体的な対応例も説明していただきました。実際に私たちが支援方法を考える上では「こうすればよい」というマニュアルは存在せず、その状況に応じたフルオーダーのプログラムが必要だということでした。



(泉ヶ丘小学校 野瀬田 隆)

熊本市PTA協議会 ソフトバレーボール大会



第34回市Pソフトバレーボール大会が、8月3日(土)市内19の小中学校体育館を会場に125校、約2200人の参加を得て無事開催されました。この大会へ向け各校それぞれで気合のこもった練習や練習試合が行われ、保護者と先生方の連携プレーに磨きがかかっていました。

当日、砂取小会場では試合開始前のラジオ体操において、出場選手による生のピアノ演奏で会場は大いに盛り上りました。

試合を重ねることに、選手たちと保護者のみなさんによる応援の輪で一致団結したその様子には、各校の一体感が見られました。

(帯山小学校 吉本 敬二)

区	会場校	優勝	準優勝	3位
中央区	黒髪小	京陵中	江原中	大江小・藤園中
	砂取小	砂取小	城東小	帯山小・託麻原小
	江南中	五福小	向山中	白川小・出水南中
	桜山中	竜南中	桜山中	帯山中・西山中
東区	託麻北小	二岡中	西原中	託麻北小・託麻南小
	東野中	東野中	湖東中	山ノ内小・健軍小
	長嶺中	長嶺中	錦ヶ丘中	若葉小
	桜木中	託麻西小	東町中	桜木東小・桜木中
西区	池上小	池田小	池上小	中島小・小島小
	城西小	城西小	城西中	花陵中・春日小
	井芹中	城山中	白坪小	花園小・井芹中
	飽田中	飽田東小	飽田中	日吉東小・城南中
南区	力合中	川尻小	力合中	力合小・飽田西小
	富合中	富合中	御幸小	飽田南小・奥古閑小
	日吉中	田迎西小	田迎小	託麻中・日吉小
	植木小	武蔵小	弓削小	西里小・麻生田小
北区	田原小	北部東小	楠中	武蔵中・田原小
	龍田中	龍田中	城北小	清水中・龍田小
	鹿南中	檜木小	楠小	鹿南中・川上小

「CPプラン」の活用について

熊本市PTA協議会で本年度から本格的に事業展開した「CPプラン」は、単Pの活動をサポートし、さらなる充実を図っています。

本年度の活用状況としては、読書プラン24校、家族プラン2校、地域連携プラン14校となっています。例えば読書プランでは、単なる書籍購入ではなく、読み聞かせのための工夫を行い、保護者と児童が交流し、読書の楽しさ・面白さを共有する取組などが行われています。

来年度も、各単Pにおいて「子どもたちの輝く笑顔のためにPTAとしてできることは？」を念頭に様々な工夫のもと、「CPプラン」の積極的な活用をお願いします。



「くまもと教育・文化フォーラム」

11月16日(土)に、熊本市退職校長会と市P協の共催「くまもと教育・文化フォーラム」が開催されました。帯山中学校合唱部、託麻東小育友会による活動発表、会場一体での全員合唱などの開会イベントのあと、熊大名誉教授医学博士 小郷克敏氏の講演がありました。また13日～19日には、鶴屋ふれあいギャラリーにて美術展も開催され、PTAからもたくさんの方の出展がありました。